



竹爪 憲吾 議員

Q 消防・救急体制の現状と今後の計画は

A 町長

第6次熊野町総合計画の基本施策として「消防・救急体制の充実」を進めている。

【Q1】
消防車・救急車の出動回数の変化は。

【A1】
火災での消防車の出動回数は令和2年以降、1桁台で推移している。救急出動回数は令和4年度で対前年比17.5%増、搬送人員でも約10.3%増と増加傾向となっている。

【Q2】
消防団活動の現状は。

【A2】
定員157人に対し8名欠員。報酬の改定により待遇改善を行うも定員確保に至っていない。主な活動内容は6、9、11月に研修、訓練、講習を実施。12月に年末特別警戒、1月に出初式及び1、3月に訓練を実施している。また、災害時には避難の呼びかけ等に努めている。

【Q3】
欠員確保のため他市町で採用している大学生、また女性団員の募集は考えていないのか。

【A3】
現在、積極的な募集はしていない。

【Q4】
若い力や女性ならではの活躍の場があると思う。女性団員のいない自治体はあるか。

【A4】
県内では本町、大崎上島・神石高原町の3町。



▲渋滞する熊野町役場前交差点

Q 県道・町道の改良工事の進捗状況と今後の計画は

A 町長

県道は県の道路整備計画を、町道は第6次総合計画の基本施策として推進している。

【Q1】
県道の渋滞緩和のための改良工事の計画並びに進捗状況は。

【A1】
県道矢野安浦線の熊野バイパス事業が進行中で、区間全体の道路詳細設計完了後、出来庭から県道瀬野呉線までの間において土地所有者と境界立会を進めていく予定と伺っている。また、現道対策として、阿戸別れ交差点や町民会館前交差点の改良計画があり、今年度、土地所有者との用地交渉等を進める予定であると伺っている。

【Q2】
通学路になっている町道の改良工事計画はあるのか。

【A2】
通学路交通安全プログラムに基づき抜本的な対策が必要と判断された箇所を優先的、計画的に整備を実施する。

【Q3】
熊野町役場前交差点から馬橋までの拡幅計画はないのか。

【A3】
これまでに、歩行スペースを緑色に明示する対策を実施している。道路の拡幅については、家屋等が連続する区間でもあり、事業実施には時間を要すると考えている。

Q 横断歩道が渡れない歩行者の安全対策は

A 町長

交通安全街頭活動などで啓発している。



沖田 ゆかり 議員

【Q1】
信号機の設置されていない横断歩道では、歩行者を確認しても車両が止まらないため、子どもや高齢者が大変困っている。歩行者の安全対策を行っているのか。

【A1】
交通量の大幅な増加など大きな変化がないと信号機の設置はできないため、交通安全の啓発活動や、通学路でのボランティアの見守りなどをお願いしている。

【Q2】
地域住民からの要望が多い深原公園入口交差点については県道の工事が完了後、信号機の設置を県に要望していただきたいが。

【A2】
完成をまたず状況を注視し、警察と協議し

ながら進めていく。
【Q3】
信号機の設置されていない横断歩道に、歩行者がセンサーに手をかざせばライトが点滅し車両に注意を促す、横断者注意喚起灯の設置をしていただきたいが。

【A3】
情報収集し検討していく。



▲横断者注意喚起灯

Q こども未来戦略方針・子育て政策は

A 健康福祉部長

今後、国から示される要綱を踏まえ町として適宜対応していく。

【Q1】
国では保育人材の確保を重視され資格があっても働いていない「潜在保育士」を補助者として雇用し、復職を支援する場合に費用を補助する制度を検討されているが。

【A1】
町としても検討していきたい。

【Q2】
医療的ケア児（新生児特定集中治療室等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や、たんの吸引などの医療的ケアが日常的に必要な児童）に対し、サービスを紹介し関係機関と家族をつなぐコーディネーターの配置は。

【A2】
4名配置し、町内3事業所で活動しており県に登録している。

【Q3】
発達障がい児への支援について、障がいのある子もいない子も同じ教室で一緒に学ぶインクルーシブ教育を、熊野町でも取り組んでいただきたいが。

【A3】
共生社会を目指していくことは大切だが、場を共有するだけでなく、個別最適な学びの環境をつくるのが大切であると考えている。

【Q4】
ヤングケアラーへの学習支援は。

【A4】
適応指導教室の利用等を促している。

